

木と竹と藁の荷造り

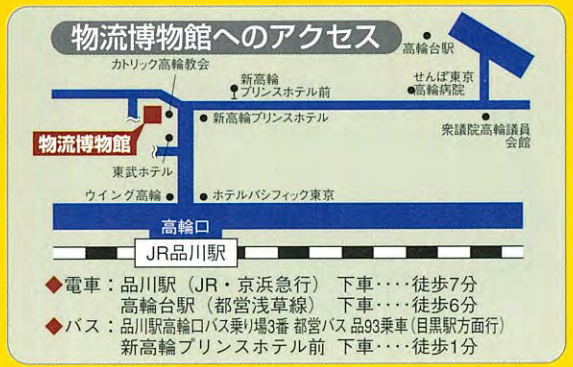
— 昔の荷物たちが語ること —

2004年4月24日(土)～6月20日(日)

むかしの荷物たちが物流博物館に集まります。



開館時間 午前10時～午後5時(入館は4時半まで)
 休館日 毎週月曜日(5月3日は開館)・4月27日(火)・
 4月30日(金)・5月6日(木)・5月25日(火)
 観覧料 大人200(100)円 小中学生100(50)円
 ※()内は20名以上。小中学生は土曜日は無料。
 上記の料金で常設の「現代の物流」展示室もご覧いただけます。



物流博物館



輸出用茶箱のアンペラ荷造り
(独)農研機構野菜茶業研究所蔵



輸出用生糸のアンペラ荷造り(復元)
シルク博物館蔵



鋳物製風呂釜の藁荷造り
川口市教育委員会蔵

半世紀前の荷物は、今とはかなり違った姿をしていました。
今回の展示では、現在ほとんど見かけなくなった、木箱や樽、竹カゴ荷造り、ワラ荷造りといった自然素材を使った梱包や、これらの荷物をめぐる諸事情について、実際の荷物、復元資料、写真、図版、製作工程の映像などで紹介します。

<主な展示資料> 青果物のステカゴ(オクリカゴ)各種、果物の木箱荷造り各種、陶磁器の藁荷造り各種、鋳物の荷造り各種、輸出用茶箱(アンペラおよび南京木綿包装)、輸出用生糸(アンペラ包装)、生糸俵装(布製)、セメント樽(レプリカ)、石油箱ほか木箱、ガラス瓶木箱荷造り、醤油・ビール・清酒全箱、醤油樽、酒樽、サカサダル、炭俵、米俵(二重俵)、麻袋など

■講演会 6月13日(日) 午後1時~4時30分
講師:・さいたま文学館 学芸員 服部武氏
「青果物輸送用のステカゴについて」
・九州産業大学前教授 宮木慧子氏
「陶磁器の伝統的ワラ荷造りの技術と形態」
参加費:入館料200円/参加人数:30名(要電話予約)
申込み先:物流博物館 03(3280)1616まで。

物流博物館特別展示

わら
木と竹と藁の荷造り
—昔の荷物たちが語ること—



サカサダルによるカツオの輸送 沼津にて
昭和30年代初め



ブドウの竹カゴ荷造り(復元・山形県)



炭俵(角俵) 東京都江戸東京博物館蔵



藁荷造りの陶磁器の貨車荷役 沼津駅にて 昭和30年代初め